

血液用バスキュラーアクセス (VA) インターベーション (PTA)
における超音波計測指標の有用性
～上腕動脈 resistive index (RI) と血流量～

長崎腎病院

○内野拓寿, 飯野八朗, 田川秀明, 李 嘉明, 原田孝司, 船越 哲

【背景】

近年、VA検査に超音波が汎用されVA関連のパラメータが測定可能となった。一方PTAの技術分野でも開存期間延長のため検討が進み、当院でも最近低圧拡張による血管障害を避ける試みを行っている。

【目的】

PTAによる上腕動脈の血流・血管抵抗の改善と、開存期間延長との関係を検討する。

【対象・方法】

頻回PTA患者(年3回以上)のPTA前後の上腕動脈の平均速度の増加率(ΔV)・resistive indexの増加率(ΔRI)が測定可能であった14例に開存期間と2因子の関係を調査する。

【結果】

全例PTA後に上腕速度の平均速度は上昇しRIは低下した。 ΔV ・ ΔRI とも開存期間と相関はなく、14例中4例に ΔRI が大きいほど開存期間が短く、PTA前平均速度の低値傾向が見られた。

【考案】

今回の検討でPTA前の平均血速低下とPTA前後の血管抵抗の変化が大きい症例に開存期間が短い傾向がみられ、今後定期的血流測定と適切タイミングでのPTAを検討したい。